様式１（小・中）

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和７年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	佐賀市立城南中学校
1　前年度 評価結果の概要	・「不登校対策」において、昨年度から引き続き成果指数(数値目標)を達成できなかった。全職員の取組に対する意識は高いものの、なかなか現状打破が難しい。そこで、学校関係者からの意見にあったように不登校生徒を減らすための取組の充実にシフトしてはどうかと考える。 ・全体的には良好な教育活動が出来たと考えられるが、細かく見るとキャリア教育や安全教育にあと一工夫が必要だと感じた。 ・前年度課題に挙げられていたコミュニティスクールの認知度については、保護者は変わらず８割を超えておりある程度浸透していると考えられる。教職員及び生徒については今回６割から７割程度に認知度が上がっている。今年度の様々な行事のアナウンスの際にCSであることを意識して行ったことの効果ではないかと考えられる。 ・「学力の向上」の成果指標についての検討 ・スケジュール帳を活用した家庭学習への取組についての検討
2　学校教育目標	**『城南中学校生徒としての誇りをもち、たくましく生きる生徒の育成』** **～「城南魂をもち主体的に学び、人の気持ちのわかる人」の育成を目指して～**
3　本年度の重点目標	**・ICTを効果的に活用することで「個別最適な学び」を充実させ、「協働的な学び」につなげる。** **・不登校を減らすための対策として、生徒指導の三機能を基盤にした開発的生徒指導の充実を図る。** **・学校教育力向上を目的とした、地域との連携（城南中学校運営協議会、城南豊夢学園運営協議会）の活性化を図る。** **・特別支援教育に向けた、生徒、教師の「困り感」解消に向けた取り組みの充実を図る。**

4　重点取組内容・成果指標　　5　最終評価

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○全職員による共通理解、共通実践 ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の考え方を取り入れた学習活動 ・家庭学習の充実に向けたスケジュール帳（NOLTYスコラ）の活用	○学校評価アンケートで「授業以外でもICT機器等を積極的に利用して学習内容の理解に努めた」と回答した生徒75%以上 ○「自分で計画し、家庭学習を行った」と回答した生徒75%以上 ○「個別最適な学び」と「協働的な学び」の考え方を取り入れた授業を実践できた」と回答した職員80%以上	・全職員で、ワークシートやICT機器等を活用しながら、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の考え方を取り入れた授業を実施する。 ・生徒に家庭学習について考えたり、友人の学習法を学んだりし、自分の計画を立てさせる。	B	・「授業以外でもICT機器等を積極的に利用して学習内容の理解に努めた」と回答した生徒は50.1%で、中間評価の段階からあまり変化がなかった。一方、校内研究会を通して、家庭学習の一環としてeライブラリの活用を行った教科もあり、少しずつICT機器等の利用ができていた。 ・「自分で計画し、家庭学習を行った」と回答した生徒は、62.0%と中間評価からあまり変化がなかった。一方、NOLTYスコラの担当の方からは、全国に比べてNOLTYスコラの利用について高い水準で実施できていることを伝えていただいた。今後、家庭学習への接続を図る必要がある。 ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の考え方を取り入れた授業を実践できた」と回答した職員は90.0%で、中間評価の段階から向上した。校内研究会で教科部会を実施する中で、職員の指導方法や実践の共有ができ、具体的なイメージができたと考えられる。	B	・授業以外でもICT機器の利用や家庭学習については、50.60%台にとどまり、さらに充実に向け取組が望まれる。ただし、個別最適であったり協働的な学びを推進する職員の取組は高く今後に期待できる。 ・「学力向上」について、「『個別最適な学び』と『協働的な学び』の考え方を取り入れた授業」と、「計画的な家庭学習の充実」の関係・関連性が、「具体化」・「見える化」できるか。 ・「取組内容」にある「個別最適な学び」と「協働的な学び」を取り入れた学習活動については、「数値目標：職員80%以上」を大きくクリアして90%。 また、「取組内容」にあるノルティの活用についても「高い水準」との結果です。 この評価要素で、数値目標をクリアできなかった項目は「ICT機器の積極利用」と「計画的な家庭学習」ですが、この要素は「取組内容」等での記載がありません。 取組内容・成果指標（数値目標）と具体的取組がうまくかみ合っていないのでは？ 「ノルティの活用」と「『個別最適な学び』と『協働的な学び』を取り入れた学習活動」に特化すればA評価 ・NOLTYスコラの取り組みについての改善が望まれます。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校評価アンケートで「自分や周りの人の命を大切にし、思いやりの心で周りの人に優しい言葉をかけたり、行動したりしている。」と回答した生徒を85%以上とする。	・授業参観の時には道徳の授業を公開することで、家庭や地域の方々とも心の教育についての連携を図る。 ・道徳科の授業づくりに関する校内研修等を実施する。	A	「自分や周りの人の命を大切にし、思いやりの心で周りの人に優しい言葉をかけたり、行動したりしている。」と回答した生徒は94．0%で微増した。 ・体育大会や文化発表会など行事ごとに道徳的価値と関連する道徳の授業を実施したり、楽器の演奏や詩の朗読を通して豊かな心を育む全校道徳を実施したりすることで「道徳の授業を生かした生徒への声がけを行い、生徒が自分自身と向き合う場面を作ろうと試みている。」と答えた教員が83．4%に増加した。	A	・振り返りアンケートで成果目標を達成した。 ・学校の教育活動・行事と「道徳の授業と全校道徳」を関連付けた取り組みは、集団活動を通しての道徳性の育成として、高く評価できる。 ・いい傾向だと考えます。今後も続けてください。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等（いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等）について組織的対応ができていると回答した教員を90%以上とする。	・いじめに関するアンケートを行い、早期発見、早期対応を行う。 ・いじめの対応についての研修・会議を年間に5回以上行う。	A	・後期のアンケートで、「いじめ防止等（いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等）について組織的対応ができているか」の質問に対して、「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答した教員は93%以上であった。毎月の生活アンケートを活用し、悩み事や不安の早期発見につなげることができた。 ・生徒指導部会（週1）や生徒指導協議会（月1）で生徒の情報を共有し、いじめや問題行動に対する迅速な対応や効果的な指導につなげることができた。 ・職員全体が、8月に校内で行った研修会で身につけた知識や対処法を、2学期・3学期の生徒指導につなげることができた。	A	・振り返りアンケートで成果目標を達成した。 ・先日の「いじめ防止対策委員会」の報告等からも、学校の組織的な対応や生徒・保護者との良好な関係性等が伺える。 ・いい傾向だと考えます。今後も続けてください。
	●生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒80%以上	・授業や各行事のリーダーを実行委員とし、出番・役割・承認を保障する。 ・SCによる生徒への心理教育を実施する。 ・1年時に職業調べ、職業人に学ぶ、2年時に職業体験などを行い、キャリア教育の充実を図る。	B	・「先生はあなたのよいところを認めてくれる」と回答した生徒は、中間報告から少し下がり、86．2%であった。今後、さらに授業や各行事、および委員会活動や係活動などの中で出番や役割を与え、積極的に承認をしていきたい。 ・「将来の夢や目標をもっている」と回答した生徒は73．5%と、中間報告から少し上がった。さらなるキャリア教育の充実を目指していきたい。	B	・将来の夢や目標については目標を下回ったが、一朝一夕に向上するのは難しい。そこで、概ね成果目標を達成したと判断できる。 ・「先生はあなたのよいところを認めてくれる」の最終評価が、中間報告から4%ほど下がっているが、その理由・原因等と考えられることは何か。 ・具体的な将来目標を多感期の中学生に求めるのは難しい気がします。「あなたの将来の夢や目標実現来向け、学校はその背中をしっかり押してくれると思いますか？」といったことをアンケートで問うてはどうでしょうか。 ・キャリア教育について改善が望まれます。
	○不登校の未然防止・早期発見・早期対応に向けた組織対応の、全職員による共通理解・共通実践	○学校評価アンケートで「不登校の未然防止や改善などに向けて些細なことも見落とさずに学年(学校等チーム)での取り組みができている。」と回答した教員90%以上	・定期的な教育相談アンケートやQUアンケート等を活用する。 ・専門的な知識を持つ外部人材を活用した職員研修や生徒講話などを実施する。 ・SCやSSW、サポート相談員や関係機関、地域との連携を強める。 ・部会や会議等において職員で情報を共有し、共通認識・共通実践を心がける。	A	・教育相談係会を毎週、教育相談部会を毎月実施し、各学年、SC、SSW、別室対応支援員、サポート相談員、との連携を図り不登校の未然防止や改善に向けて取り組んだ。 ・1月にはQUテストについての校内研修会実施し、学年単位で気になる生徒を把握し、生徒の少しの変化も見逃さないように現時点の状況を把握した。 ・「不登校の未然防止や改善などに向けて些細なことも見落とさずに学年（学校等チーム）での取り組みができている。」と答えた教員は93．4%で中間評価の時期より増加した。 ・12月にケース会議を1回実施。	A	・振り返りアンケートで成果目標を達成した。 ・不登校の未然防止や改善等に向けた先生方の意識の高さや日頃の取り組み等について、高く評価できる。 ・いい傾向だと考えます。今後も続けてください。
●健康・体つくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ○「望ましい生活習慣の形成」	●「健康に良い食事をしている」生徒80%以上 ○朝食をとって登校する生徒85%以上	・食に関する意識調査、生活状況調査の実施 ・食育に対する講演会の実施 ・保健だよりの発行 ・生徒会を中心とした健康づくり、体力づくりへの取組みの活性化を図る。	A	・「健康に良い食事をしている」は、「よくあてはまる」が52．5%、「だいたいあてはまる」を含めると91．6%である。「朝食をとって登校する生徒」は、「よくあてはまる」が74．7%、「だいたいあてはまる」を含めると92．4%である。どちらも目標を達成できた。これから、「よくあてはまる」と答える生徒の割合がより増えるよう、健康づくり、体力づくりへの食育の推進に努めたい。	A	・振り返りアンケートで成果目標を達成した。 ・学校・先生方の日頃の取り組みはもちろんのこと、PTAの取り組み等も功を奏していると考える。 ・「弁当の日プロジェクト」等、食育の成果ではないでしょうか。 ・いい傾向だと考えます。今後も続けてください。
	○「安全に関する資質・能力の育成」	○命に関わるような生徒の交通事故・生活事故0(ゼロ) ○生徒の交通事故を5件以下にする。	・交通安全教室の実施と自転車点検を保護者と連携して充実させる。 ・室内における危険箇所や危険な状況について知らせたり考えさせたりする機会を設ける。	B	・機会を捉えて交通ルールを守ることは、自分の命を守ること、という話を全校に対して行い、自転車の乗り方についても長期休暇前には注意を促していた。それで、生徒用アンケートにおいて、「交通ルールやマナーを守っている」は、「よくあてはまる」と「だいたいあてはまる」を合わせて97.6%であった。また、保護者用アンケートにおいて、「交通ルールやマナーについて声かけをしている」は、「よくあてはまる」と「だいたいあてはまる」を合わせて94.2%であった。生徒と保護者ともに、交通安全への意識が前期に比べて高くなっている様子が見られた。 ・交通事故について、軽微なものを含めると年間で10件以上あった。集会や長期休暇の前、また、自転車の乗り方が気になったときなど折に触れて注意を促しているが、なかなか5件以下にならないため、他に方法を考える必要がある。	B	・交通事故件数は目標に到達しなかったものの、PTAを含め保護者も意識が高まっており、期待できる。 ・学校の指導・取り組みにより、生徒・保護者の意識等の数値も高くなっているので、事故件数減少へつながると期待している。 ・学校生活のみならず日常生活における交通ルールの遵守を指導されることは大切だと思料します。 なお、登下校時の「交通事故」については、原則として学校の責任ではないので、数値目標未達成については評価できません。 ・交通事故を減らすよう改善が望まれます。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ・月間平均時間外勤務時間数が45時間以下の職員80%以上 ・全職員年休5日以上の取得	・その日の学校施錠予定時刻を毎日示す。 ・時間外勤務時間数が45時間以下の職員数を毎月示す。 ・困難な事案は複数で連携して取り組むことで負担軽減を図る。	B	・時間外勤務については後期でも月に45時間以下の職員は63.4%にとどまった。その理由としては、後期に生徒指導事案が起こったことや学校行事等の準備に費やしたことによるものであった。 ・年休取得については、5日以上取得できなかった職員が1人であった。年休取得の促進を始める時期が遅かったことが原因である。	B	・目標に到達せず、さらに達成に向け取組が望まれる。 ・数値目標は達成できていないが、例えば時間外勤務については、子どものために「今でしょ！」というところもあると思う。 ・取組内容やプロセスがどうであれ、期首に掲げた数値目標をクリアできなかった場合はC評価。この結果を次の成果目標につなげていただきたいと存じます。 ・時間外勤務のことは、無理も言えないと思います。
	○学習用端末の効果的な活用	○授業でICT機器を効果的に活用していると答える職員を85%以上	・全職員のICT機器スキル向上のための研修会を開催する。	B	・「授業でICT機器を効果的に活用している」と回答した職員が80%であり、目標達成できなかった。また、生徒アンケートで、「授業以外でもICT機器等を積極的に利用して学習内容の理解に努めている」と回答した生徒は50.%であり授業以外では学習用端末をあまり活用することができていない。	B	・目標に到達せず、さらに達成に向け取組が望まれる。 ・「授業でのICT機器の効果的活用」について、教科や授業単元等の関連はどうか。また、「授業以外でもICT機器等を積極的に利用して学習内容の理解に努めている」と回答した生徒は50%とあるが、その50%をどう考えるか。 ・取組内容やプロセスがどうであれ、期首に掲げた数値目標をクリアできなかった場合はC評価。この結果を次の成果目標につなげていただきたいと存じます。 ・学習用端末の利用についての改善が望まれます。
●特別支援教育の充実	○障害のある生徒個々の障害に配慮した、通常の教育課程に基づく指導	○「特別支援教育の視点を踏まえ、生徒への支援を行っている。」と回答した職員が85%以上。	・特別支援教育の視点を全職員が持つために、生徒一人一人の実態を把握し、個々にあった支援について考え、実践力を高められるような研修を実施する。	A	・「特別支援教育の視点を踏まえ、生徒への支援を行っている。」と回答した職員が93.3%。前期より3.4%伸びた。 ・前期の研修を踏まえ、全職員に具体的な支援の手立てを依頼し、実践につなげた。。	A	・振り返りアンケートで成果目標を達成した。 ・「特別支援教育の視点を踏まえ、生徒への支援を行っている。」と回答した職員が93.3%とあるが、素晴らしい数値、そして、実践であると評価する。 ・いい傾向だと考えます。今後も続けてください。

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言
○開かれた学校づくり	◎地域を愛し、地域に愛される生徒の育成 ○城南中学校運営協議会、城南豊夢学園運営協議会の活性化 ○家庭や地域との連携、小中連携の取組の深まり	◎地域のニーズや要望をしっかりと踏まえ、地域と共生、協働をめざす。 ○学校行事、学年行事などへの保護者の参加率を70%以上とする。 ○学校評価アンケートで「地域行事に参加しようと思っている」と回答した生徒を60%以上にする。	・CS協議内容を十分に検討し、豊夢学園のプロジェクトを推進し小中連携の充実を図る。 ・学校行事の案内について、発信方法や発信内容を検討し、保護者の「見てみたい」「参加したい」という意識の高揚につなげられるようにする。 ・メールシステムとネットを活用し、保護者のニーズや意識を調べ、学校運営に生かす。 ・全校生徒だけでなく、部活動ごとにも呼びかけ、学校、地域のボランティアや行事に参加するよう呼びかけ、参加につなげる。	A	・小中連携に関しては、3校主幹会で綿密に企画し、小中合同クリーン大作戦やドリームスクール、第3回城南豊夢学園合同研修会を実施することができ、小中連携のさらなる強化を図ることができた。しかし、クリーン作戦については、今後さらに効率よく活動できるように来年度に向けて改善が必要である。 ・「学校行事や学年行事にはできるだけ参加している」と答えた保護者は、80．7%で、目標値である70%を大きく上回ることができた。プリントの配布だけでなく、様々な連絡手段を用いて発信したことも1つの要因であると思われる。 ・「私は城南中学校が小学校や地域と連携してコミュニティ・スクールを推進していることを知っている」と、答えた生徒は69．1%で、昨年度を大きく上回ることができた。また、ボランティア活動のお知らせを密にしたり、掲示を工夫したり、HPやさがんメール、れんらくんなど、あらゆる連絡手段を活用してボランティア活動をお知らせしたことや、写真付きの感謝状を作成して配布したことで、学校内のボランティア活動に参加する生徒も増加し、地域のボランティア活動に積極的に参加する生徒も3年生を中心に増加した。 ・「地域行事に参加しようと思っている」と回答した生徒は56．2%で、60%には届かなかった。地域行事のお知らせをもっと早くから把握し、参加したくなるようなお知らせや掲示の仕方を工夫していきたい。	B	・学校行事については、成果目標を達成できたが、地域行事については、目標を達成できなかった。ただし、地域行事については地域行事の企画運営に携わるものとして、ボランティアの頑張りを共有しており、今後を期待したい。学校からの働きかけも引き続きお願いしたい。 ・三校主幹会での企画・調整等が、小中連携において、大きな効果・成果をあげていると評価する。 ・保護者の学校・学年行事への参加率が高いのは、学校の情報発信等の賜と考える。 ・「生徒の地域行事へ参加」について、公民館・各種団体や町づくり協議会等との連携協力はどうか。 ・北川副小校区の地域活動について、昨年度より大きく延伸したと思料します。また地域ボランティアに参加した生徒の意欲も高いものが感じられました。ただ、「数値目標」を評価のものさしにした場合はB評価です。 ・クリーン大作戦がよりいいものとなるようお願いします。 ・地域活動への生徒の参加の呼びかけをお願いします。

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・教員がお互いに指導方法や実践等を共有する中で、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を意識して授業づくりを行うことができた。来年度は、生徒に対して授業中にICT機器等の利用を促すような手立てをより一層共有し、家庭での活用につなげたい。 ・特別支援教育に対する教員の意識や支援のスキルの向上を図ることができた。来年度は授業や環境のUD化に向け全職員の実践力をさらに高めたい。 ・教職員の働き方について、生徒指導や学校行事など時間がかかることが予想されるものがあるので、平常時に早めに退勤できるよう促すようにしたい。また、年休取得に関しては、夏季休業に入るタイミングで年間5日以上取得の再確認をして促進したい。 ・道徳の授業や研修を通して、生徒・教員ともに道徳に関する意識を高めることが出来た。来年度は、校外研修の内容共有を通して道徳の授業の指導力をさらに高め、授業実践へつなげたい。 ・コミュニティースクールを存分に生かして、昨年度を上回る地域連携と小中連携を実施することができ、教職員や生徒の意識を高めることができた。来年度は、今年度の反省を生かしつつ、地域と共に学校の教育目標を達成できるよう、さらなる取り組み（弁当の日プロジェクトの充実・城南豊夢学園三校交流会など）を企画し、実施していきたい。 ・授業ではICT機器は活用できていたが、授業以外では活用することができていなかった。来年度は、eライブラリなどを生徒自身が活用し、個別最適な学びができるように支援していきたい。